

「ピアノ演奏を通じて栃木県の文化の向上に、力を合わせてがんばりましょう」— P T N A 栃木県支部（支部長＝田淵進宇都宮短大教授）の連絡会が1月14日、宇都宮市の宇都宮短期大学付属高校で、福田靖子当協会専務理事を招いて盛大に開かれました。

席上、田淵支部長（当協会理事）が「栃木県の文化レベルの向上に向けて、生徒に対し

てはピアノ指導のことだけでなく、一人一人の教師の大切さを認識し、技術を与えるだけでなく、精神的な支えになれるようにありたい。常に全体の和をもって、よい音楽をすることを浸透させるように精進しましょう」と呼びかけたあと、25人の出席者たちが熱心に討論を行いました。ここで、紙上再録してみますと——。（敬称略）

## 音楽の輪をより広げよう

**福田** ピティナヤングピアニストコンサートをPTNAの関係者以外の人にもぜひ聞いていただきたいと思います。会員以外の方に一人でも多く聞いてもらえたら、PTNAのより深い理解が得られるのではないのでしょうか。

**厚地** こちらでは、宇都宮市内の学校、楽器店等に案内を出してはいるのですが…。招待状を添えて案内を出すことなど、今後も支部の課題として検討したいと考えています。

**田淵** PTNAヤングピアニスト・コンペティションの課題曲の曲目が非常に多いですので、演奏者本人が演奏の準備をしきれない部分があるように思えますが…。

**鈴木晶** 自分の弾く曲を聴きに行った子供が、楽譜通りの演奏ではなかったと戸惑っていたこともありましたよ。

**福田** 演奏内容についてのアンケートを採ってみるのはどうでしょうか。当日の会場で書いてもらい、演奏者にそれを見せれば、本人にとってよい勉強になると思うのですが…。

**阿久津** 課題曲の数が多いので、聴きに行っても級が上がると、その級のなかの1、2曲しか弾かないので残念です。前もって何を弾くのか、わかっていれば、こちらとしても、ありがたいです。

**大貫** 公開演奏会の時も、やさしい曲で高音部記号と低音部記号を間違えて弾いた人もいました。課題曲演奏の場合、前もって審査委員長のレッスンを受けるのはいかがでしょうか。

**福田** 本部には演奏研究委員会というものがあります

ので、それならば、演奏研究委員長の方が好ましいですね。支部にも演奏研究委員会を作るのはどうでしょうか。支部に演奏委員をつくれば、一層の充実が図れると思います。支部内で演奏者を年ごとに交代させていくのです。また本部と支部とで合同で演奏会を行えば相互のレベルアップの向上が図れると思います。

**川名** 課題曲テープのことですが、指定されている版で録音してほしいと思います。各社版と指定であれば、問題はないのではないのでしょうか。

**小倉** 実際のレッスンを聴いた人ならわかりますが、その場に居合わせないと、わかりづらい内容のものもあります。

**大貫** テープの録音に際しては徹底してほしいですね。中途半端な方法では、かえって悪影響の方が多すぎるような気がします。

**川名** テープのタイトルを変えたらどうでしょうか。“模範テープ”ではなく、“参考テープ”とか“曲目紹介”とか…。模範という言葉に父兄がとらわれてしまうんですね。

**田淵** 公開レッスンについての話を進めましょう。

**川名** 毎年、とても勉強になっていますが、課題曲がとても多いので、聴講できない曲もあります。そこで、提案ですが、現代曲だけのレッスンという風に4回に分けて聴講するのはどうでしょうか。

**福田** 東京では、すでに4回開いております。6月の日曜日4回に、公開レッスンを開催しています。しかし、その事務量が多く、東京の事務局はそのためテンテコ舞っています。

**厚地** 大がかりな行事になればなるほど、事前の準備が大変になります。そのような場合には、事務局以外の人たちの協力をあおがなければできませんので皆さまとよく相談していきたいと思えます。

**高橋** 昨年夏のコンペティション宇都宮地区予選は、これまでの年に比べ、教育的な配慮の欠如が非常に目立ったような気がします。そのことに対する不平、不満を持つ会員の声を多く耳にしました。単にコンクールが成績順位を並べ、審査員の批評を聞くだけのものに終始していたと思えます。コンクールというものが生徒一人一人に愛情を持って育てるという意味での刺激であり続けてほしいと思えます。

**直江** 去年はE級の審査で、受験者をステージに12人あげていましたが、待ち時間が長過ぎて緊張感が保てなかったようです。一曲一曲も長いですすね。

**福田** ふつう、ステージの袖などで待たせていますよ。私は必ず、その時、楽譜を持って来るようにアドバイスしています。

## 審査員の養成も急務！

**厚地** 去年は審査委員長が、ステージに出場者10人をあげ、そのあとの10人は、横に並らんで待たせておくようにいわれました。それまでにはここでなかったことでしたが、審査が大変だからということでした。

**田淵** 全体の装飾や雰囲気づくりも大切ですが、そろそろ、PTNAもよりよい発展をしていくために、実質的な運営をしていく必要があります。

**仲山** 全体的には、やはり初期のコンクールの方がよかったように思います。このあたりで、どういう風にしたら、理想的なコンペティションが開催できるのか、考える必要があるのでしょうか。例えば今年は何級から何級、来年は何級から何級——とかに分けて開き、内容の充実を図る、というような具合に。それから審査員によって審査の基準が違うように思えてなりません。審査員全体にもう少し勉強してほしいと考えているのは私一人ではないのでしょうか。

**福田** コンペティションでは、審査員の影響が大きいですから、審査員全体のレベルアップ、養成は本当に必要でしょうね。陸上競技などでも、ジャッジ試験というのがあるそうですが、審査員にも一級、二級のランクをつけるなど、いろいろな方法も考えられますね。また、ある支部では学生審査員をつくつ

たらという意見も出ています。同じ一票の資格がなくても、二分の一票とか三分の一票ぐらいでも、というわけです。

**仲山** もちろん、音楽は一つという答えがあるものではありませんから、いろいろな角度から見てのいろいろな採点であることはわかりますが、去年は極端にだれもが見ても首をかしげるような矛盾もあったと思えます。

**大貫** 審査員席は二階につくりますね。東日本地区本選の時に眠っていたという審査員がいたというのですが、一階には変えられないのですか。また審査員数を5人から7人に増やし、最高と最低をカットしてはどうでしょうか。

**福田** この件については検討したいと思えます。参加者総数に合わせて人数を調節することなども必要かと思えます。

**直江** 採点表のことですが、採点表の言葉が少なすぎると思えます。去年の東日本地区予選ではたった一言、“お上手でしたね”とあり、点が6.7くらいの子がいました。本人は“上手”という言葉と6点という点数に戸惑っていました。もっと内容に愛情を感じられるようなものにしていただきたいと思えます。

**福田** たとえどんな高名な方であったとしても、具体的に批評の書けない人では困りますね。鈴木先生は去年初めてPTNAヤングピアニスト・コンペティションに生徒を出場させられました。それまではどうしてうちのコンペティションに出場させなかったのですか。

**鈴木晶** PTNAのことは前から、よく知っていました。私はこちらの付属高校の音楽の授業を受け持っています。ちょうどコンペティションの準備期間が教育実習と重なってしまうので、コンペティション予



連絡会で挨拶する田淵支部長

選は実際に聴いたりはしていましたが、自分の生徒を受験させる機会がありませんでした。

**阿久津** 実際に生徒さんを出場させてみてのご感想はいかがでしたか。

**鈴木晶** 出場させてみてわかったのですが、ただ聴いているだけで、自分であれこれ考えているようなわけにはいきませんでした。聴いているだけでなく、具体的に自分も参加してみなくてはだめなんですね。私自身、本当によい勉強になりました。

**福田** 外から見ているのと実際とはハンディがあるということですね。PTNAの会員のなかに、まだコンペティションに生徒さんを出場させていらっしゃる方がおられますが、数多くの参加を呼びかけたいと思います。

**田淵** 次にことしの行事予定についての話題に移りましょう。

**厚地** 栃木県支部の事務局としましては、3月上旬に支部総会を開催したいと思います。4月上旬に第3回PTNAヤングピアニストコンサートを、6月に課題曲公開演奏、もしくは公開レッスン、7月中に第11回PTNAヤングピアニスト・コンペティションの地区予選を予定しております。

**福田** 私からいくつかの提案があるのですが、まず4月のヤングピアニストコンサートのことですが、ピアノだけでなく、特別演奏という形でヴァイオリンのミニコンサートなど盛り込んでみるのはいかがでしょうか。それから、コンペティションのことですが、栃木県地区の地区本選を東京以外の場所にする

というのはどうでしょうか。またG級、特級に関してですが、栃木県など地元にも音大のある地域で持ち回りにするというのも考えられませんか。そうすれば、その地域のレベルを上げることになると思うのですが…。それから、ピアノという楽器は、どうしても個人プレーになりやすい楽器ですね。そのため、フェスティバルのような形でもよいですから、アンサンブルを広げていきたいと考えているのですが…。

**田淵** 栃木県支部としまして、そろそろ本選を開催するのは、どうでしょうか。もちろん、地区同志の組み方など細かな配慮が必要ですが…。

**川名** そうですね。栃木県の音楽レベルを向上させるためにも、栃木県という地域を栄えさせなければならぬと思います。私たちは、これまで常に東京に何かを求めて行きますが、これからはここに腰を据えて、お互いの研さんの場所をつくり出していきたいと思います。それに本選が東京で開催されますと、自分の生徒が出場しない先生はやはり、東京へ聴きに行くこともないようです。その点、本選がこちらで開催されれば、地元の先生方にとっても勉強になるのではないかと思います。

**田淵** それぞれの支部、県の体質があります。各地区によってさまざまのご意見がおりでしょうから、本部の方では、各地区の実状に見合った運営をしていただきたいとお願い致します。

(発言者氏名、田淵進、川名悟、大貫忠次、鈴木晶子、阿久津佐智、小倉郁子、高橋真江、直江はるみ、仲山笑子、厚地和之、福田靖子)

### 栃木県支部の行事

- 61年3・30 第2回PTNAヤングピアニストコンサート
- 5・16 第10回PTNAヤングピアニストコンペティション課題曲演奏会 講師=佐藤 祐子
- 6・4 同 課題曲公開レッスン 講師=J・パノウエツ
- 7・12, 13 同 宇都宮地区予選
- 7・24, 25 同 栃木地区予選
- 62年1・13 若林顕ピアノリサイタル



連絡会に出席した栃木県支部のみなさまと  
福田協会専務理事（前列左から3人目）